

学 園 だ よ り

太 白 山

(令和元年5月発行)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立2丁目4-1

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<http://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

新年度挨拶

園 長 池田 耕一

今年四月の異動により、初の勤務公所となる当学園の園長を拝命しました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年度、学園には八名、分教室には一名の新たなメンバーが転入し、男児十四名、女児三名の体制でスタートしました。四月は、「始業式」等分教室の行事に加え、「お花見」など盛り沢山の学園行事への対応に追われているうちに瞬く間に過ぎてしまい、時代が平成から令和へと移り変わった今、ようやく歴史の節目に立ち会えたことに感慨を感じる心のゆとりが持てるようになりました。

私は、児童相談所や児童福祉所管課での勤務経験を有し、学園を間近で見る機会がありました。現在、日課・個別対応により、子ども達や職員と接することに喜びを感じる日々を送らせていただいております。

学園といえは、私が十七年前に児童福祉司として勤務していた時に出会った、忘れられない男児がいます。その児のためには、学園で自分を見つめ直す機会が必要と考える私と入所を拒む児との間で、共に涙を流しながら四時間に及ぶ激論を交わした

後に理解を得、入所に至ったケースです。振り返ればまだまだ未熟であったなと思いつつ、子どもと真正面から向き合い、子どもの考えや気持ちを真正面から受け止めた私に対し、私の考えや気持ちも真正面から受け止めてくれたその児と過ごした時間は、今でも私の大切な宝物です。

その思いを決して忘れずに、「子どもたちのために」という学園の存在意義を具現化すべく、職員が一丸となり、「オールさわらび」のスローガンの下取り組んでまいりますので、皆様には、今後とも御理解・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

新年度挨拶

分教室教頭 根本 光一

昨年、旗立分教室に赴任し、あっという間に一年が過ぎました。振り返ってみると改めて「子どもと向き合う」ということを考えさせられた一年でした。

学園に入所する子ども達は様々な課題を抱え、自立支援方針も一人一人異なってきます。それを学園の先生方とも情報交換をしながら、分教室での指導方針にも反映させていきます。

そして、現在の学園と分教室は、互いの専門性は異なりながらも、常に「すべては、子どものために」という視点で同じ方向を向いて連携することができていると思います。

一般の学校でも、配慮を要する児童生徒が増えてきており、保護者とも連絡を取りながら、個別の支援方針を立てていくことが求められますが、分教室はまさに、その最先端を行っているとも感じています。

そして、この一年の経験から自分のこれまでを振り返ると、個別の配慮が必要と分かっているにもかかわらず、かと言えば、「学校の考えを保護者に理解してもらおう」という話し合いになり、保護者との連携が必ずしも十分ではなかったのではないかと気づかされました。

もちろん、自立支援のための生活指導を行う学園と一般の保護者とは、立場が全く異なりますが、「子どものために」という視点で話をする点では同じはずですが、一般の学校でも、この視点をもっと強



く意識して保護者と連携を深めることで、課題のある子どもも、もしかすると学園への措置が必要になる前の段階で落ち着いた生活をするということにもつながるかもしれません。

そして、わたしたち分教室職員のこの経験を少しでも学校に発信していければと思います。

今年度もよろしくお願いいたします。

新入学生作文

「中学校生活の抱負」

児童 S

私は中学校生活でやりたいこと、達成したいことが四つあります。

一つ目は、英検をとることです。理由は、部活動などで推薦をもらえなかったときに英検を持っていないと高校に入りやすくなるためです。

二つ目は、漢検二級をとることです。これも高校入学のためです。

三つ目は、全てのクラスをAクラスにすることです。私は、なるべく早いうちに自分の学年の勉強に追いつけるようにしたいからです。

四つ目は、野球部で全国大会に行くことです。私は、元々はキャッチャーでしたが、今はショートなのでキャッ

チャーのポジションに戻りたいと思っています。今年、地区大会が宮城開催なので、目標は三安打三打点三盗塁、三盗塁阻止をすることです。

この目標を達成し、皆を全国に連れに行けるように頑張りたいです。

共生共育の大切さ

指導班長 田中 佳二

学園に入所した子ども達は、寮での

集団生活を送ります。これまで生活してきた習慣や家族構成、生活してきた時間や場所も違う子ども達が、入所したその日から生活を共にします。中には、新たな子どもの入所に過敏になってしまい、気持ちが悪くなる子もいます。職員も含め、暮らしを共に行う中で、互いに意識し、影響し合いながら、共に育ち合う「共生共育」の考え方が、学園の底流にあります。

最近、特に、この「共生共育」の大切さを感じています。子ども同士のトラブルがあったり、注意を受けても同じ失敗を繰り返してしまったりも達している中で、相手の行動を理解できず、責めたり、ストレスをためたりする子どももいます。集団生活を通して、受け止めてもらえること、相手を許すこと、相手を理解することを経験し、子

ども同士がつながり合い、互いが支え合う雰囲気作りこそが共生共育の目指すところです。

理解し合うこと、相手を受け入れることで自分が活きることに気づき、子ども一人ひとりの自律の力につながってほしいと思っています。

「いきものがかり」

広瀬寮長 我妻 敬徳

広瀬寮は昨年度から継続する七名の子ども達と、この春の人事異動で新たに配属された二名を含む六名の職員で新年度をスタートしました。

このひと月、子ども達も職員も新しい環境に戸惑いながら言わば手探り状態で過ごして参りましたが、この連休を終えてやっと寮内がひとつになったように感じております。

ルーティンワークという言葉自体が存在しないこの職場は日々発生する問題に悩みながら格闘することの連続ですが、見方を変えれば毎日が新しい発見を提供してくれる絶好の場でもあり、彼らと共に成長することができる絶好の環境とも言えます。

私共職員は、子ども達一人ひとりの個性や主体性を尊重して、時には優しく、時には厳しく、彼らが健康な心身

を育みながら課題解決に取り組みための「いきものがかり」なのだという謙虚な気持ちを常に持ち続けながら職務に当たって参りたいと存じます。保護者の方々並びに関係者の皆様の御支援と御協力を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

今後の行事予定（五月～六月まで）

- ・五月十日 田植え（分）
- ・五月二十三日 科学館学習（分）
- ・五月二十九日 写生会（分）
- ・六月二十七日 全日本少年野球東北北海道地区大会（於：宮城県）

※分：分教室行事

編集後記

今年度もよろしく申し上げます。広報誌を通して普段の学園生活や行事、職員の声などを皆様にお伝えしていきたいと考えております。

六月には全日本少年野球東北北海道地区大会が宮城県で開催されます。子ども達も野球大会でのプレーを楽しみにしております。皆様の応援、御支援が子ども達の励みになるかと思えます。今年度もさわらび学園、子ども達を温かく見守って頂ければと思います。